

心  
 一  
 乃

月

一、竹園、山、水、石、花、鳥、蟲、魚、草、木、  
 一、竹園、山、水、石、花、鳥、蟲、魚、草、木、

支那の文化

負起此種責任的責任者

新垣吾郎 中野あすか 子生

之

20

山

自初化取上  
一應務  
吾務心入

4  
 5  
 6  
 7  
 8  
 9  
 10  
 11  
 12  
 13  
 14  
 15  
 16  
 17  
 18  
 19  
 20  
 21  
 22  
 23  
 24  
 25  
 26  
 27  
 28  
 29  
 30  
 31  
 32  
 33  
 34  
 35  
 36  
 37  
 38  
 39  
 40  
 41  
 42  
 43  
 44  
 45  
 46  
 47  
 48  
 49  
 50  
 51  
 52  
 53  
 54  
 55  
 56  
 57  
 58  
 59  
 60  
 61  
 62  
 63  
 64  
 65  
 66  
 67  
 68  
 69  
 70  
 71  
 72  
 73  
 74  
 75  
 76  
 77  
 78  
 79  
 80  
 81  
 82  
 83  
 84  
 85  
 86  
 87  
 88  
 89  
 90  
 91  
 92  
 93  
 94  
 95  
 96  
 97  
 98  
 99  
 100  
 101  
 102  
 103  
 104  
 105  
 106  
 107  
 108  
 109  
 110  
 111  
 112  
 113  
 114  
 115  
 116  
 117  
 118  
 119  
 120  
 121  
 122  
 123  
 124  
 125  
 126  
 127  
 128  
 129  
 130  
 131  
 132  
 133  
 134  
 135  
 136  
 137  
 138  
 139  
 140  
 141  
 142  
 143  
 144  
 145  
 146  
 147  
 148  
 149  
 150  
 151  
 152  
 153  
 154  
 155  
 156  
 157  
 158  
 159  
 160  
 161  
 162  
 163  
 164  
 165  
 166  
 167  
 168  
 169  
 170  
 171  
 172  
 173  
 174  
 175  
 176  
 177  
 178  
 179  
 180  
 181  
 182  
 183  
 184  
 185  
 186  
 187  
 188  
 189  
 190  
 191  
 192  
 193  
 194  
 195  
 196  
 197  
 198  
 199  
 200  
 201  
 202  
 203  
 204  
 205  
 206  
 207  
 208  
 209  
 210  
 211  
 212  
 213  
 214  
 215  
 216  
 217  
 218  
 219  
 220  
 221  
 222  
 223  
 224  
 225  
 226  
 227  
 228  
 229  
 230  
 231  
 232  
 233  
 234  
 235  
 236  
 237  
 238  
 239  
 240  
 241  
 242  
 243  
 244  
 245  
 246  
 247  
 248  
 249  
 250  
 251  
 252  
 253  
 254  
 255  
 256  
 257  
 258  
 259  
 260  
 261  
 262  
 263  
 264  
 265  
 266  
 267  
 268  
 269  
 270  
 271  
 272  
 273  
 274  
 275  
 276  
 277  
 278  
 279  
 280  
 281  
 282  
 283  
 284  
 285  
 286  
 287  
 288  
 289  
 290  
 291  
 292  
 293  
 294  
 295  
 296  
 297  
 298  
 299  
 300  
 301  
 302  
 303  
 304  
 305  
 306  
 307  
 308  
 309  
 310  
 311  
 312  
 313  
 314  
 315  
 316  
 317  
 318  
 319  
 320  
 321  
 322  
 323  
 324  
 325  
 326  
 327  
 328  
 329  
 330  
 331  
 332  
 333  
 334  
 335  
 336  
 337  
 338  
 339  
 340  
 341  
 342  
 343  
 344  
 345  
 346  
 347  
 348  
 349  
 350  
 351  
 352  
 353  
 354  
 355  
 356  
 357  
 358  
 359  
 360  
 361  
 362  
 363  
 364  
 365  
 366  
 367  
 368  
 369  
 370  
 371  
 372  
 373  
 374  
 375  
 376  
 377  
 378  
 379  
 380  
 381  
 382  
 383  
 384  
 385  
 386  
 387  
 388  
 389  
 390  
 391  
 392  
 393  
 394  
 395  
 396  
 397  
 398  
 399  
 400  
 401  
 402  
 403  
 404  
 405  
 406  
 407  
 408  
 409  
 410  
 411  
 412  
 413  
 414  
 415  
 416  
 417  
 418  
 419  
 420  
 421  
 422  
 423  
 424  
 425  
 426  
 427  
 428  
 429  
 430  
 431  
 432  
 433  
 434  
 435  
 436  
 437  
 438  
 439  
 440  
 441  
 442  
 443  
 444  
 445  
 446  
 447  
 448  
 449  
 450  
 451  
 452  
 453  
 454  
 455  
 456  
 457  
 458  
 459  
 460  
 461  
 462  
 463  
 464  
 465  
 466  
 467  
 468  
 469  
 470  
 471  
 472  
 473  
 474  
 475  
 476  
 477  
 478  
 479  
 480  
 481  
 482  
 483  
 484  
 485  
 486  
 487  
 488  
 489  
 490  
 491  
 492  
 493  
 494  
 495  
 496  
 497  
 498  
 499  
 500  
 501  
 502  
 503  
 504  
 505  
 506  
 507  
 508  
 509  
 510  
 511  
 512  
 513  
 514  
 515  
 516  
 517  
 518  
 519  
 520  
 521  
 522  
 523  
 524  
 525  
 526  
 527  
 5

所居より田村組長高橋村主酒造氏知文  
往來の村に高橋氏又村主村主。





いふふふ

柳子

ふふふふ

ふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふふふ

ふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふふふ

ふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふふふ

四月

ふふ

内膳

ふふふふふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふふふ





[illegible]

1745

市田良馬

三子如松

高橋孝之助

五月廿二日附  
此同來  
光緒廿五年  
五月廿二日

[illegible]

以舊七言詩一首奉報乃方官為之序中云元  
 上平下平統一之字其意為之乎

竹田子以男  
少利

少知

三才圖會

方以智

孝  
 弟  
 忠  
 信  
 禮  
 義  
 廉  
 恥  
 節  
 孝  
 弟  
 忠  
 信  
 禮  
 義  
 廉  
 恥  
 節

高麗方板面石

三月廿六日附  
行李及行李知在內

筆を多しと云ふ

石通

星加坡小坡大馬路門牌一百一十一號

4

事多及之  
 又上車  
 常上  
 文

敬文堂

四六

市人馬

三石齋

嘉慶二十五年

惜時所吊不索自下日中時 官府  
事多官自以少私私私相與東丘也公劉公





[illegible]

一、  
 二、  
 三、  
 四、  
 五、  
 六、  
 七、  
 八、  
 九、  
 十、

[illegible]



一 平家朝臣の御方に入られおぼつかうとす  
 然るに、とまなれども、  
 平家朝臣の御方に入られおぼつかうとす  
 然るに、とまなれども、  
 平家朝臣の御方に入られおぼつかうとす  
 然るに、とまなれども、

組入

三音不

一、多面

三石

[illegible][illegible]

四月十八日

十一

一 伊予のあまのついでに

一 伊予のあまのついでに

一 伊予のあまのついでに

一 伊予のあまのついでに

一 伊予のあまのついでに

一 伊予のあまのついでに

一 伊予のあまのついでに

一 伊予のあまのついでに

一 伊予のあまのついでに

一 伊予のあまのついでに

一 伊予のあまのついでに

一 伊予のあまのついでに

一 伊予のあまのついでに

一 伊予のあまのついでに

一 伊予のあまのついでに

一 伊予のあまのついでに

一 伊予のあまのついでに

一 伊予のあまのついでに

一 伊予のあまのついでに

一 伊予のあまのついでに

一 伊予のあまのついでに





[illegible][illegible]

右の三首を名えし物なり  
 三首の五首と云ふは  
 此の三首なり

卷之五  
 丁巳年

丁巳年

此よりいふは、少くも我輩の志を常々思ふに似て  
「此方こそ我が心」云々の如きものなり。これと  
「吾輩は日本人である」といふものとは、全然  
異なるものである。我々が「吾輩は日本人であ  
る」といふのは、我々が日本人であることを自覚し  
た上でのことである。それでは、我々が日本人であ  
ることを自覚した上で、我々が何をすべきかといふ  
ことが、我々の使命である。我々が日本人であるこ  
とを自覚した上で、我々が何をすべきかといふこと  
が、我々の使命である。

[illegible]





いふにふたふたふたふた

いふにふたふたふたふた

いふにふたふたふたふた

いふにふたふたふたふた

いふにふたふたふたふた

いふにふたふたふたふた

いふにふたふたふたふた

いふにふたふたふたふた

いふにふたふたふたふた

いふにふたふたふたふた

いふにふたふたふたふた

いふにふたふたふたふた

いふにふたふたふたふた

いふにふたふたふたふた

いふにふたふたふたふた

いふにふたふたふたふた

いふにふたふたふたふた

いふにふたふたふたふた

いふにふたふたふたふた

いふにふたふたふたふた

いふにふたふたふたふた



うきとくしあるとくしあるのうきとくしある  
しうきあるとくしあるのうきとくしある  
うきとくしあるとくしあるのうきとくしある

12

物もくもまかた中を促しては花布の  
物も手物も善くあるを

印物天為分年一

[illegible][illegible]

927

少子可味  
少子可味  
少子可味

五十五  
 五十六  
 五十七  
 五十八  
 五十九  
 六十  
 六十一  
 六十二  
 六十三  
 六十四  
 六十五  
 六十六  
 六十七  
 六十八  
 六十九  
 七十  
 七十一  
 七十二  
 七十三  
 七十四  
 七十五  
 七十六  
 七十七  
 七十八  
 七十九  
 八十  
 八十一  
 八十二  
 八十三  
 八十四  
 八十五  
 八十六  
 八十七  
 八十八  
 八十九  
 九十  
 九十一  
 九十二  
 九十三  
 九十四  
 九十五  
 九十六  
 九十七  
 九十八  
 九十九  
 一百

四

十日

五

中の事案例位を所とす

一四

日里金仙手  
不刻酥中清  
五

和歌集は万葉集に次ぐ

五

[illegible]

竹葉青心片多刺者望之

[illegible]

如李氏之入所爲

古くより我を七おろそ

我々考ふに、帝は、  
我々考ふに、帝は、

此乃予之平生志也

毛氏

中尾平兵衛

三

牡丹花の香も  
 下は白くも  
 上は赤くも  
 花の香も





[illegible]

百

内張

今の世も古の世も同じく、  
一に河内金屋に至る内廷に  
あるものも、一に外廷に  
あるものも、同じく、

[illegible]



由は... 年  
...  
...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

五箇仕はる者あり。心も事あり。一箇ふあり。  
 心も事あり。心も事あり。心も事あり。  
 心も事あり。心も事あり。心も事あり。  
 心も事あり。心も事あり。心も事あり。  
 心も事あり。心も事あり。心も事あり。

四月  
別了人方房主意以三申表分以商者  
此乃因所因之院家等心以報情之義也  
希而後報者一報以并此心而所而心久發也  
按此上院之心中也者利而商中者信之也  
則此則院家等心於此而希而後報者一報  
此乃因所因之院家等心以報情之義也

抄上の書は家集に記し西口羅殿の書に  
 此を冊に記す云々

四月  
別れをいふ書物情を再添  
負知得花の心へあり恨めしき日の中へ白え  
情なきより何れ来月をみぬかり恨めしき心よ付  
くそとてふかじきまにわかれは  
心ゆく方々も懐かし

[illegible]

吾等とてあつたを  
 吾等とてあつたを  
 吾等とてあつたを

一以拓以合為口

一、  
學  
生  
入  
學

[illegible]

早應以判官何時此可也

一、中興之役、女之入、例、方、以、諸、人、事、此、

心附人主心附主心附主心

萬物皆有其理

主人

心あふふゆふのうた

我々東日本を代表するものとして、この時、彼に会ふ事

此乃古之所謂

傳  
 刻  
 今  
 多  
 此  
 元  
 一  
 分  
 所  
 石  
 三  
 元  
 何

家珍玉照

此屋之石上地產者，宜不致有妨也。

あふれは 空のゆくえ

丁巳